

V20b 次期岡山新型カセグレンカメラ計画

奥村真一郎（国立天文台岡山）他、岡山天体物理観測所スタッフ

国立天文台岡山天体物理観測所では2～3年先から5年、10年先を見据えた「中期」運用計画の一環として、OASIS、HIDESに続く次世代の観測装置の検討を開始した。すばる時代の岡山運営という点を考え、

- ・すばる第一期観測装置で広視野近赤外カメラが整備されていないこと、
- ・2～3年先にはOASISの後継機が必要になると思われること、
- ・木曾観測所等、国内の他の観測施設との共存

という点を考慮した結果、

- ・近赤外、特にKバンド帯での広帯域、狭帯域広視野撮像を可能にすること
- ・J、H、Kバンドでの分光機能

の2点を重視した上で設計を進めることにした。具体的には、今のところ

1、ダイクロイックミラーを用いた可視・近赤外同時広視野多目的撮像分光装置
または

2、2連光学系により広視野モードと高分解能モードが切替可能な近赤外撮像分光装置

の二つの可能性について検討を行なっている。1は可視域で現在使用されている新カセグレン分光器の後継機としての機能も含めたものであり、2は（今のところ）OASIS同様に近赤外のみ装置として考えている。いずれの場合も近赤外検出器は1024×1024フォーマットのMCTアレイを想定しており、最大8'×8'程度の視野を目標としている。今回の講演ではこれらの装置について、目標とする性能とその実現可能性について議論を行なう。